

パリ協定発効

パリ協定、昨年12月、国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP21）で採択された。2大排出国の中国と米国が9月に締結、インドや欧州連合（EU）加盟国などが続き、10月に発効の条件となる総排出量の55%以上、55カ国以上の締結を満たした。30日後の11月4日に発効する。国連によると、2日時点で94の国と地域が協定を締結。出遅れた日本は4日にも国会で協定締結を承認する見通しで、その後閣議決定して国連に提出する。

世界の温室効果ガス排出量はCO₂換算で年間約370億トンに上る。日本はこのうち約14億トン（2013年度）で世界5位。各国は削減計画をたてることになっており、日本も30年度に13年度に比べて26%減らす目標を提出している。（朝日新聞デジタル版から）

2016年11月7日～18日にモロッコのマラケシュで、UNFCCC 第22回締約国会議（COP22）が開催されます。

併せて、5月16日から26日にかけてドイツ・ボンで開催された第1回パリ協定特別作業部会第1回会合の再開会合（APA1-2）等が開催されます。

ホテルの予約や開催地マラケシュに関する情報等に関するモロッコ政府の特設サイトが開設されましたので、参加を検討されている方はご参照下さい。

REDD+に関連する議題やイベント等、追加情報については内容が決まり次第掲載します。

REDD Japan イベント情報から